

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ			17646	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藪内 順子	選択	1	看護師、看護教員			

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E IパーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をととして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
 2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実際。成長・発達の観察と測定
 3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
 4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
 5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
 6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
 7. 子どもの疾病と適切な対応②個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
 8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
 9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
 10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急蘇生法
 11. 事故防止および健康管理・安全管理④子どもの救急蘇生法
 12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤保育における看護
 13. 事故防止および健康管理・安全管理⑥災害への備えと危機管理
 14. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
 15. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動
- まとめ
終講試験

授業の方法

講義および演習と実習。視聴覚教材、グループワークも取り入れる。グループでのポスター作製およびポスター発表も行う。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う。

事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点40% 定期試験60%

平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価による。実習にふさわしくない服装や髪型、レポート等の提出期限を守らないの場合等は減点対象とする。また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

欠席について

原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止および急ぎなどの公欠となった場合は認める。欠席した場合、1回につき2点減点とする。

テキスト

①子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布

②子どもの保健Ⅱ演習 白野幸子 著

参考図書

授業時に適時紹介する。

留意事項

演習には身なりを整え、動きやすい服装で出席すること（スカート、踵の高い靴は不可。顔にかかる髪はゴムで束ねる。）

予定として、AED講習を受講する。日程は後日連絡する。この講習は講義2回分とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②		17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを十分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方は、表現活動に関する取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して詳説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身につける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会を持つ。

授業計画

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解、表現と表出について
2. 子どもの表現行動と精神発達（表出することを楽しむ、模倣性を経験する）
3. 子どものからだと表現（発達段階に即した動き、基本リズム、模範表現）
4. 身体の諸感覚を通し、身近な材料を用いた楽しい表現活動の発表と振り返り・課題レポート提出
5. 季節や行事、伝統芸能、伝承あそびなどの体験と表現活動
6. 創造性を豊かにする身体表現の体験
7. 子どもの想像力を養う表現活動と指導案の作成（情報機器や教材の活用を行う）
8. 物語を題材にした創作表現のグループ発表と振り返りとまとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。学修のまとめとしてグループで表現活動の発表を行い、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。

②グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。

平常点60% 課題レポート30% 指導案10%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とし、2.5回を超える欠席で不合格とする。

テキスト

池田裕恵・猪崎弥生編著 「保育内容「表現」－からだで感じる・表す・伝える－」改訂第2版

株式会社杏林書院

参考図書

授業時に紹介する。

留意事項

第1講義より2号館体育室で行う。動きやすい服装、体育館シューズ着用で出席すること。